



114
A2396



本月十八日附ノ日刊新聞ジヤツパンガセツトニ貴政府ヨリ工部
 省雇入ノ外國人ニ賜ハリシ酺宴ノ事ヲ記シ又此新聞ニ據シハ此
 宴會ノ節瀛車掛ノ長タル
 氏ト云ヘル者上席シテ衆ノ
 求ニ因リ頗ル長キ口上ヲ述ヘタリト見ユ
 通例ニテハ
 氏ノ如キ者ノ宴會ノ節述ヘタル事ハ彼是兩國
 交際上ニテ注意ス可キニ非スト雖此度同人ノ述ヘシ事柄ト其口
 上ヲ聞キテ多分テ之ヲ信ス可キ人ノ為トニ付キ余閣下ニ此書ヲ呈セサル
 ヲ得サルニ至ル

終者ノ數枚ニ長ク果ノ方迄ノ條

正十一年四月
隈後爵邸寄附

4277



同人ノ口上中ニ曰ク

米利堅ニ於テハ総テ米人日本ニテ大ニ用ヒラルトノ語アリ且書
冊ニモ頻リニ其由ヲ記載シ元来米國ハ日本ニ近キカ故日本
政府ノ諸省ニ於テ米人権ヲ取ラントスル處置ヲ為シ得ルハ當
然ナリト論ス然ルニ鐵道ノ一事ニ付テハ日本人我朋友米人ヲ指シテ
ノ交ヲ免レシト云フ方至當ナル可シ其故ハ所謂吾界ノ規模ナ
リト誇レル共和政治ニ於テハ鐵道ニ付テノ詭欺多ク殊ニ「エリー
レイルロード」ノ如キ鐵道ニ付テハ是非ヲ辨セサル狡猾ノ輩巨大

ナル詐偽ヲ行フテ歐米二洲ノ金主ヲ欺キテ零落ニ至ラシメ終ニハ
ロスクナル者殺害ニ逢フタルニ犯罪人ノトクハ其罪ヲ赦サレ裁判
官一名其職掌ヲ辱カシメタリトテ免官セラレタルカ如キ一騷
擾ヲ醸シタリ依テ日本ニ於テハ此ノ如キ景状ヲ起ルヲ防カン
為メ日本政府自カラ鐵道ヲ造リ以テ平民ニ此舉ヲ為スル
許ルサハ狡猾ノ輩衆庶ヲ欺クノ害アル丁ヲ防カントシタリ
抑米國ノ鐵道設造ノ方法ハ日本ノ鐵道設造ノ方法ニ少しモ関係
ナキ所ナレハ 氏米國ノ鐵道設造ノ方法ヲ譏罵スルノ趣意如

何ナリトモ閣下ニ於テモ余ニ於テモ棄テ向ハサル所ナレ右口上ノ未文、
日本國ノ為メ大關係ノ事タルハト思ハル蓋シ其未文ニ因リ生スル所、
議論ハ總テ日本政府土木造営ノ業ヲ起スハ其官員ニ托シ官ノ力ニミテ
為サシムルヲ以テ良法トスルヤ又ハ先ツ其緊要ナル土木造営ノ業ヲ
目論ム丁ノミヲ官員ニ任セ然ル上ハ可成丈費ヲ省キテ設造ヲ為サシムル
ヲ以テ良法トスルヤノニツニアリ

總テ万國共ニ政府自カラ造営土木ノ大業ヲ成就セントスル時ハ平民
ノ之ヲ為サントスルヨリモ二倍ノ費用アル丁衆人一般ニ知レル確説ニ

シテ先其所以ヲ尋レハ第一ニ如何ナル人ト雖モ他人ノ財ヲ用ルニハ
自己ノ財ヲ用ルカ如ク諸事ニ注意シ精詳ニ心掛ル丁ナキヲ以テ通
例トシ次ニ故ニ他人ヲ欺クヲ欲セサル人ト雖モ官金ノ出納ヲ掌ル時ハ
其金ヲ私セントスルノ意往々生シ易キニ因ル所ニシテ吾界万國ノ人情
皆斯ノ如クナレハ獨リ日本ノミニ於テ此例ナシトス可カラス况ヤムケノ
任ヲ受クル者外國人ニシテ日本人ノ自國ヲ思フカ如ク報國ノ念厚キ丁
ナレハ此害愈々甚シカル可シ

此ノ如ク政府ニテ自カラ造営土木ノ業ヲ起ス時ハ平民ノ私ニ其業ヲ起スヨリ

更ニ夥多ノ費用アルトハ實際ニ涉レル確論タル旨ヲ承知シタルニ因リ各
國ノ執權輩官ノ起作ヲモ平民ノ私ニ為ス所ニ均シク可成丈廉價ニ成功
セントスル計策ヲ頻ニ考究シ終ニ歐米各國ニテ所謂受負法ト云ヘル方法
ヲ採用スルトハナレリ

此受負法ト云ヘルハ政府其造営掛リ官員ヲシテ其設立セント欲スル功業
雛形ヲ審カニ作ラシメ且其造営ニハ何等ノ品物ヲ用ユ可キヤ又何時
迄ニ其業ニ就ク可キヤヲ詳明ニ取極メニ為政府ニテ此等ノ諸件
ヲ可トシタル上ニテ全國人民ニ其設立セント欲スル所ハ如何ナル物タルヤ

其造営ヲ為ス方法ハ如何ナルヤ又其功業ニ就クル期限ハ如何ナル
ヤヲ公告シ然ル上ニテ何人ニ限ラス其造営ノ業ヲ可成丈ト立引
受テントスル者ハ其旨ヲ申出ツ可キトヲ布令ス是ニ於テ其造営
ヲ引受ケント欲スル各人又ハ會社他人ノ附直段ハ如何程ナルヲ知ラ
サルニ因リ若シ已レノ附直段廉價ニ非レハ受負ノ契約ノ他人ノ手ニ
入ル可キヲ恐レ自然詳細ニ算計ヲ為シ受負直段ヲ申出ル節全ク
儲口ヲ失フヨリ寧ロ些少ノ利分タリトモ得ニトヲ欲シ競テ廉價ヲ申
出ツヘシ斯ノ如ク為サハ政府ニテ平民ノ私ニ起作ヲ為スニ均シキ利益

ヲ得可キ譯ニテ政府ハ最モ廉價ニ付ケタル者ト直ニ契約ヲ取
結ヒ其造營ノ事ニ付テハ受負人ニ諸事ヲ打任セ最早政府ニテハ
心配スルノ勞ヲ省キ受負人定期内ニ定メ通りノ方法ト物品トヲ以テ
造營ノ業ヲ成就セハ政府ヨリ約束通り其受負人ニ金高ヲ渡シ若
シ受負人其約定ニ背クコトアラハ約束通り金高ヲ渡スニ及ハサルノ
總テ歐米各國ニテ「ドック」燈明臺公ケ之建築造營等ヲ為シタルハ
皆右ノ方法ニ因ル所ナレハ今茲ニ日本ニテ用ヒシ方法ト米利堅ニテ

用ヒシ方法ト何レ歎良法タルヤウ比較セサルヲ得ス抑米利堅ニ於テ
ハ世界中何レノ國ヨリモ數多ク鐵道ヲ造リタルニ其地ハ高山峻嶺聳
立寂莫タル曠野數百里ニ達シ鐵道造營ノ業頗ル困難ヲ極メタル
此鐵道ハ其造營ノ方法並ニ其器具列車等最良ニシテ且吾界ノ鐵
道中ニテ最モ安全ナルモノナリト云フ然ルニ米國鐵道ヲ造營シタル費用、
中數ハ一里ニ付キ四萬ドルラレニ及ブコトナシ
日本ニテハ長サ僅カニ三十里ニ至ラサル小鐵道ヲ造リタルニ途中山谷ニ
橋ヲ架シ又ハ地道ヲ穿ツニ及ハス又茂原曠野ニ道ヲ造ルヲ要セス大抵

平坦ノ地ニシテ基礎堅牢ナリ加之ニ夫ノ雇賃米利堅ヨリモ下直
ニシテ材木モ夥多ナレハ其價モ亦廉ナルニ此小鉄道貴政府ノ為ニ幾許
ノ金ヲ費シタルヤ余固ヨリ詳ニ之ヲ知ラスト雖モ多分^ノ之ヲ知りタル可キ
日本官負ノ話ニ此鉄道ハ一里^ニ付キ十四万^{ドル}ラレ^ルヲ費シタリト云フ
然ルニ右鉄道ハ兎モ角モ其器具ハ最モ悪シクシテ上等旅客ノ乗車
ハ輕モ米利堅ニテ馬ニ引カシムル市街ノ車ヨリモ小ニシテ且粗ナリ又
下等旅客ノ乗車ハ英米等ニテ牛馬ヲ載スル車ヨリモ猶粗^{ナリ}
又蒸氣器関モ戯物ニ近クシテ實ニ此鉄道ハ外國人ノ笑ヲ招クカ如

キモノナリ蓋シ此事ニ付テハ海外ニ旅行セシ日本人ノ目撃シタル所
ヲ以テ我説ヲ確證ナリトス可シ

余カ説ニテハ明日ニテモ何時ニテモ日本政府右鉄道ノ地ト同様平坦ニシテ
都合宜シキ地ニ鉄道ヲ造ラント欲シ最モ下直ニ引受直段ヲ附ケシ者ニ受
負ノ約束ニテ其造営ヲ任カス^トアラハ一里^ニ付三万五千^{ドル}ラレ^ルツ^ニテ
右同様ノ鉄道ヲ造築具備スルヲ引受ケント申出ス者數多アル可ク又
其造築ノ時間モ右鉄道造築ノ時ヨリ更ニ短キ^トヲ得可シ故ニ右ニ余カ
説ク所事實ニ相違アル^トナク且貴政府此度ノ鉄道造営ニ付キ一里^毎

十四万ドルに上り、其の費用は、説くに、貴政府受負人ニ任カス
事ヲ為サス官ノカヲ以テ自ラ造営ヲ為シタルニ因リ一里毎ニ十萬五
千ドルに上リ、損失ヲ受ケタルナリ蓋シ余カ日本最初建造ノ鉄道ノ事
述フル所確論ナレハ此後鉄道ヲ造ル時ニ當テハ政府ヨリ受負人ニ委任スル
ノ方法ヲ用フヘキ道理ナリ余斯ノ如クニ論スト雖モ日本ニテ鉄道ヲ造営スル
ノ業ヲ獨リ米利堅人ノミニ任ス可シト希望スルニハ非ス彼我ノ差別ナリ公
平ニシテ何レノ國人ヲモ具負セス唯日本ノ為メ可成丈費ヲ省キ土木
ノ盛業ヲ起スノ方法ヲ貴國ニテ採用アラシムヲ希フノミ

凡ソ歐米各國ノ盛大ナル政府ニ於テハ何レノ國人日本ニテ斯ノ如キノ功業
ヲ受クルトモ敢テ問ハサル所ニシテ欧米ノ諸政府日本ノ進歩ヲ見テ
一ニシテ之ヲ悦ハサルモノアルトナシ蓋シ各國ノ人民中各人ノ一身ニ取リテ
競テ日本ニ使用ヲ受ケ日本ニ品物ヲ賣リテ貴政府ノ恩澤ヲ蒙ラント
欲シ互ニ嫉ミ互ニ惡ムトアル可シト雖モ欧米各國ノ衆庶ハ利潤ヲ得ル者ノ
何人タルヲ問ハス唯外國人ノ日本國ノ諸事ヲ取扱フニ付キ正実篤信ナル
可キニ心配スル所ナレバ日本ニテ初メテ開化ノ工業ヲ起シタル時外國人ノ為メ
ニ欺カレタルトテ聞ケハ皆大ニ之ヲ憂ヘテ歎息ス可キナリ然ルニ貴國政府ニ

テ一度斯ノ如キノ損害ヲ經驗シタル上更ニ再ニ其轍ヲ踏ムコトアラハ一人トシテ
貴國政府ノ為メ憂フル者ナキニ至ル可シ

然ルニ貴國政府ニテ余カ勸ムル所ノ方法ヲ採用セハ各國辨理公使ヨリ
種々要求ヲ受クルノ患ヲ免レ且何人ヲモ不滿ニ為スノ恐アルコトナク
加フルニ受負ノ方法ナラハ各國ノ人民皆競フテ鐵道受負ノ價ヲ申
出スヲ得可キヲ以テ仮令一國ノミノ人民鐵道ノ造営ヲ引受クルニ至ル
ト雖モ他國ノ人民不公平ノ處置ナリトテ之ヲ誹ルコト得サル可シ若シ
又之ヲ誹ル者アラハ日本政府ニテ答ヘテ謂ハシ我政府ハ最モ下直ニ引

受クル者ニ任シタレハ何人タリトモ可成丈我政府ノ費用ヲ省キテ造
営ノ業ヲ為スヲ敢テ非難スルノ理ナカル可シト然ラハ即チ政府ノ
答詢真ノ理ニ協ヒ敢テ之ニ拒抗スルノ詞ナカル可キナリ

若シ又貴國政府當今猶受負ノ方法ヲ採用スルニ不都合ナル事ア
ラハ更ニ他ノ一策ヲ用フ可シ其策トハ日本政府既ニ一度英人ノ指圖
ニテ鐵道ヲ造リタレハ次ニ米人欣佛人欣日耳曼人欣ノ指圖ニテ鐵道ヲ
造ラシムルニアリテ固トヨリ各國其鐵道ヲ設クルノ方法相異ナリテ各
其得意トスル所アレハ今日本ニテ一國ノミノ方法ヲ採ルヨリモ寧ロ數國

ノ方法ヲ試ミ各其長スル所ヲ採用スルハ是レ良策ト謂フ可キナリ
 余此等ノ諸事ヲ論スルハ敢テ何レノ國民ヲモ誹ルニ非ス何レノ人ヲモ輕視ス
 ルニハ非ス唯貴國ノ冗費ヲ省キテ貴政府ノ資益スルニアリテ
 氏ノ
 述ヘシ口上ノ如ク米國ニテ「エリー・レー・ルード」ノ一件、如キハ實ニ愧ツ可
 キ所ナレハ余敢テ人ヲ怨ムノ意ヨリシテ
 氏ノ口上ニ答辨ス
 ルニハ非ラス然リト雖モ唯一箇而已、事ニ付キ失害アルニ因リ總
 テ其國ニテ行フ所ノ方法全ク不適當ナリト述ヘテ之ヲ譏ルハ
 理ニ協ハサル所ニミテ恰モ日本人中ニ贖金者又ハ謀殺者アルニ

付キ日本全國ノ民皆奉テ贖金者又ハ謀殺者ナリト謂フカ
 如シ

余是迄閣下先任ノ諸君ト會話セシ時右同様ノ見込ヲ申立置
 キタリ然ルニ當今ニ至リテハ貴國ノ官負不日ニミテ余カ申立ル所
 ノ適當ナル丁ヲ承知シ恰フ可シト思フニ付キ今又更ニ改メテ閣下ニ
 注意ス然ル上ハ復令余カ申立ル所行ハレスト雖モ余後日ニ至リ當
 今ノ惡法ヲ助ケ又ハ勸メタルノ誹ヲ免ル、丁ヲ得可シト望ム所ナリ
 氏道理モナリ猥リニ英人而已ハ利益ヲ思ヒ且故ナリシテ

米入ノ目論ニ抗ミタルニ因リ余ヨリ閣下ニ前件ヲ申立ルノ端緒ヲ
開クノ道理ヲ得セシメタルハ余ニ於テ却テ多謝スル所ナリ

大正官